

神戸港からのたより

# 港 の 風

MINATO

NO

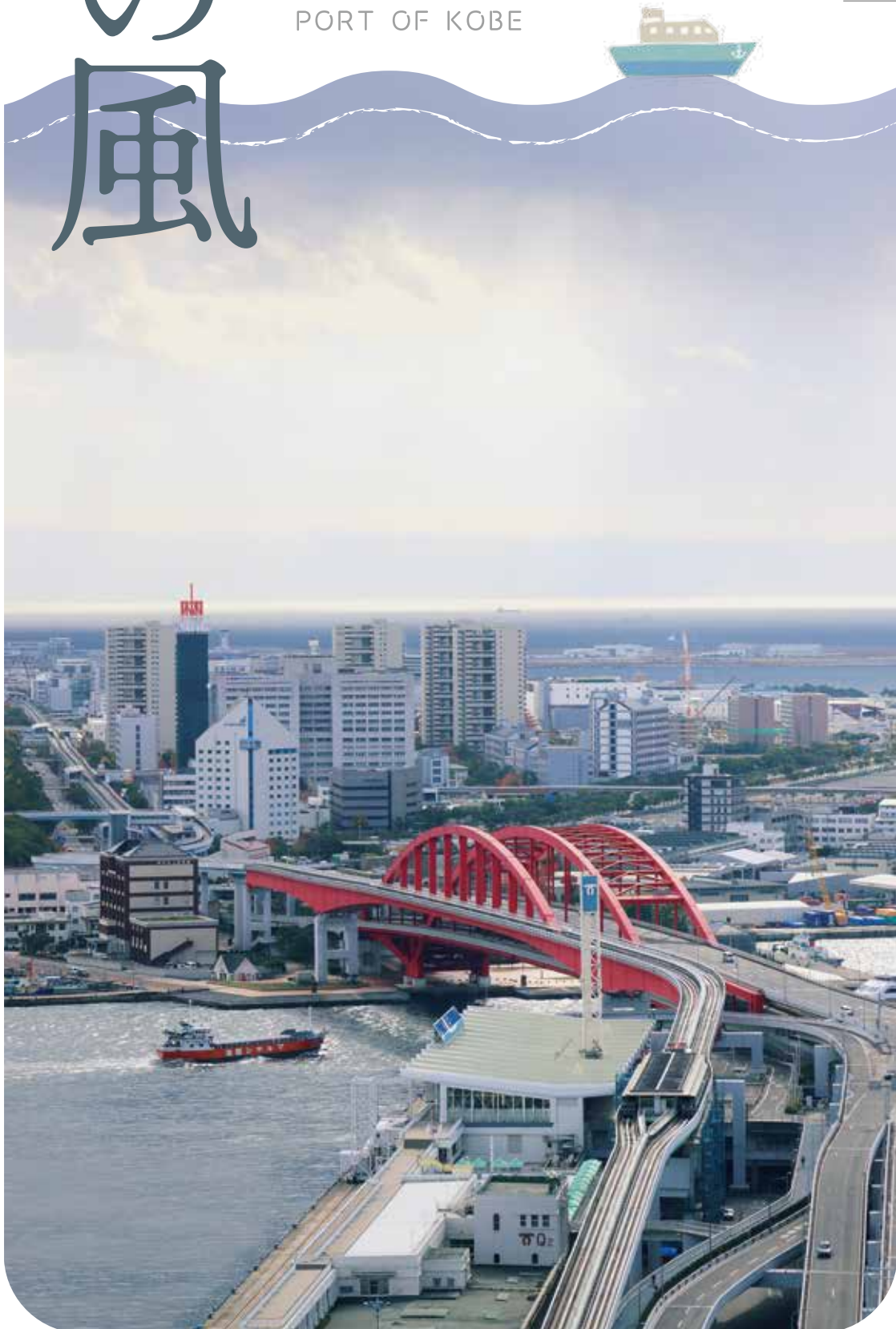
KAZE

PORT OF KOBE

vol. **59**

2025

**冬号**



特集

阪神・淡路大震災から30年／これからの神戸空港

# 港の風

神戸港からのたより

Vol. 59

2025年冬号

## CONTENTS

- 01 新年を迎えて  
神戸市長 久元 喜造  
一般財団法人神戸観光局 会長 尾山 基
- 03 人みなと  
第五管区海上保安本部長  
鎌本 浩司氏
- 04 神戸港TOPICS
- 06 特集01  
阪神・淡路大震災から30年  
～神戸港の被災と復興～
- 10 特集02  
これからの神戸空港
- 12 神戸港を行き交う船  
LNG燃料自動車船 CERULEAN ACE
- 13 船インフォメーション
- 16 神戸海洋博物館・カワサキワールドだより
- 18 神戸港貿易統計データからみる  
神戸税関こぼれ話  
プロセスチーズの輸出について
- 20 神戸空港NEWS
- 21 名刺広告
- 25 編集後記



「港の風～神戸港からのたより」

編集・発行 一般財団法人 神戸観光局 港湾振興部  
〒650-0042 神戸市中央区波止場町2番2号  
電話：078 (327) 8981 FAX：078 (332) 4739  
<https://kobe-meriken.or.jp>

# 阪神・淡路大震災から30年 ～神戸港の被災と復興～

BE KOBE  
震災30年を  
未来につなぐ

1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」から30年。毎日たくさんの船が行き交う神戸港も被災と復興を経験しました。現在では、震災を実際に経験していない神戸市民が約半数以上にのぼると言われています。自然災害への備えが呼びかけられている今、震災を風化させないため、未来への備えを考えるきっかけとするため、改めて被災と復興を振り返ります。

阪神・淡路大震災記念

## 人と防災未来センター

阪神・淡路大震災を  
経験していない職員による  
取材レポートです

「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」は、阪神・淡路大震災の経験から得た教訓を伝えるとともに、これからへの備えを学ぶことができる施設。地震発生の瞬間から、直後の様子、復興の過程までを学ぶことができます。また、2021年に全面リニューアルした東館では災害への備えを学べるコンテンツが盛りだくさん。今だからこそ訪れたい施設です。

### 西館4F 震災追体験フロア

フロア名のとおり、震災を追体験するフロア。まずは地震発生の瞬間を放映する「1.17シアター」へ。大きな画面いっぱいに広がる発災時の様子と音響効果で、地震発生時の様子を体感します。再現映像で見てもその威力と巨大さは衝撃的で、驚き立ちすくむことしかできませんでした。次に、「震災直後のまち」エリアへ。大きな建物が崩れ落ち、町にはモノが散乱しています。火事も起きていて被害の甚大さを感じるエリアです。このフロアの後半は「大震災ホール」で復興に至るまでの人々の様子をドラマで学ぶことができます。発災時の衝撃、揺れが落ち着いた後の街の様子を見て感じる悲しみや絶望感、復興の過程で感じる苦悩と、地震発生から復興までを追体験し、どこか他人事だった震災を「自分ごと」と感じることができるようになりました。



## 西館3F 震災の記憶フロア

震災に関わる資料が、提供者の体験談とともに展示されているフロア。震災発生直後から、避難所での生活、復興と、フロア全体の壁一面に時系列に被災された方の生の声が並んでいます。自分が当たり前を送っている平穏な生活を突然大災害が襲ったらどうなるのか。自分の家族や友人のことを考えずにはいられません。当時被災された方々が、早い段階で前向きに復興に向かって行った様子からは、恐怖だけではなく希望を感じ取ることもできました。



## 西館2F 防災・減災フロア

世界中で起きている自然災害の実態を学べる「災害情報ステーション」、実際自分の手で動かしたり目で見たりして災害や防災について学べる「防災ワゴン」、免震や液状化についての実験が実施される「実験ステージ」などで構成されるフロア。



## 東館 BOSAIサイエンスワールド

2021年に全面リニューアル。  
防災を学べる体験型設備が揃っています。

### ジオ&スカイホール

自然災害が起きるメカニズムを  
視覚的に学べるエリア



高気圧になって台風の進路を調整する  
ミニゲームに挑戦！

### ミッションルーム

日常生活で突然災害に襲われたら  
どのように行動するのか体験しながら学ぶエリア



コンビニの店内で比較的安全な場所を  
ご存じでしょうか？

### クエスチョンキューブ

日常生活で突然災害に襲われたら  
どのように行動するのかクイズ形式で学ぶエリア



映像空間でクイズに挑戦！  
新しい学びがたくさんあります。

### 来館者の声



「日ごろから備えることの大切さ」を  
感じる声が多くありました。

# 神戸港の被災と復興

阪神・淡路大震災により、日本最大、世界でも有数の貿易港であった神戸港の姿は一変しました。海を埋め立てて造られたポートアイランドやメリケンパークでは、液状化が発生し、多くの岸壁が揺れによって陥没しました。ガントリークレーンの倒壊や、多くの道路の分断などにより一時的に港湾機能は完全に失われてしまいました。

しかし、被災からわずか3日後には、被災地への救援救護関係者の臨時宿泊施設として船が入港しました。多くの鉄道が使用できない状態の中、代替輸送手段として臨時の海上航路が設けられ、5月末までに約70万人を輸送しました。3月20日には、フルコンテナ船が入港し、ガントリークレーンを使用した本格的なコンテナ荷役が再開されました。



## 倒壊したガントリークレーン

コンテナ荷役に欠かせないガントリークレーンが大きく破損した。



## 岸壁の陥没によって海に沈む車

液状化による地盤沈下、岸壁の陥没により車が傾き、沈んでいる。



## 中突堤から見たMOSAIC (1995年5月撮影)

岸壁が傾き、瓦礫や柵が散乱している。MOSAICには明かりが灯り、震災4か月後の復興の様子が伺える。



## ポートタワー周辺の様子

ポートタワーに繋がる通路が大きく傾き遮断されている。



## 臨時通路が設けられた神戸大橋

「よみがえれ神戸港！豊かな未来へ！」の横断幕が掛かる。

## 取材をとおして

今回の取材の中で、震災当時の報道映像や写真資料を見る機会が数多くありました。毎日眺めている神戸の街や港の風景が、一瞬でこんなにも変わってしまうのかと衝撃を受けるとともに、自然災害はいつ訪れてもおかしくないものであることを再認識しました。

いつか必ずやって来ると言われている大きな地震。怖がりすぎるのも良いことではないかもしれませんが、過去を学んで未来に備えることは大切なことであると感じました。

写真提供：神戸市

# 「第30回 神戸ルミナリエ」1月24日～2月2日に開催

今年も神戸ルミナリエがメリケンパークで見られます！



©Kobe Luminarie O.C.

阪神・淡路大震災の記憶を後世に語り継ぐ行事として1995年12月に初めて開催された「神戸ルミナリエ」は、まもなく震災30年の第30回を迎えます。

コロナ禍での中止・代替事業の実施を経て、昨年は4年ぶりの開催となり、開催時期の変更やメリケンパークへの作品展開など新たな試みを実施し、230万人の来場者をお迎えすることができました。

開催方法を変更し街の回遊性向上など、今後持続可能な新しいルミナリエを模索するうえで効果的な取り組みであったと来場者、関係者から一定の評価をいただくことができました。

まもなく開催する第30回神戸ルミナリエでは昨年よりも作品規模を充実させるなど、節目の年にふさわしい作品を設置するほか、街のさらなる魅力向上を目的に地元事業者・団体と連携した企画を行います。また、メリケンパーク会場は昨年同様一部有料エリアとなり、入場するには特別鑑賞券(紙チケット)が必要です。

さて、阪神・淡路大震災の犠牲者への鎮魂と震災の記憶を後世に語り継ぐ、まちと市民の希望を象徴する行事として開催されてきた「神戸ルミナリエ」はまもなく第30回の節目の年を迎えます。あの光溢れるルミナリエの下で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

## 作品の特徴

メリケンパーク：幅 51mの玄関作品「フロントーネ」、全長 79m の光の回廊「ガレリア」を設置（前回よりそれぞれ約 10m 拡張）震災メモリアルパークに新たに幅 3.4m、高さ 8m の「ロソーネ」を設置

## ◆ 第30回 神戸ルミナリエ ◆

期 間：2025年1月24日(金)～2月2日(日)10日間

会 場：メリケンパーク・東遊園地・旧外国人居留地

点灯時間：薄暮～21:30

作品テーマ：30年の光、永遠に輝く希望

(30 anni di luce, una speranza che brilla in eterno)

第30回神戸ルミナリエの  
詳細はこちら



チケットの  
購入方法はこちら



# これからの 神戸空港

神戸空港では、2025年春の国際チャーター便の運用開始と国内線発着枠の拡大に向け、駐機場（エプロン）の拡張や、新ターミナル、駐車場の整備を進めています。国際化に向けた準備が進められている神戸空港の現状をご紹介します。

## 神戸空港就航路線ネットワーク

令和6年冬ダイヤ 直行便11路線、37往復



神戸空港就航都市 (2024年冬ダイヤ)

## 神戸空港の概要と運用拡大

神戸空港は、2006年2月に開港し、今年で開港19周年を迎えています。

2023年は開港以来最高となる約343万人の利用者数を記録し、新型コロナからの回復を遂げています。2024年の冬ダイヤでは、全日空、スカイマーク、ソラシドエア、エア・ドゥ、フジドリームエアラインズの5社により、全11路線で37往復便が運航しています。

神戸空港、そして関西全体の航空需要は年々増加しており、訪日外国人客の増加等を受け、更なる拡大が見込まれています。そうした状況を踏まえ、神戸空港の運用が拡大されることになりました。具体的には、2025年春から、国際チャーター便の運航が可能となることに加え、現在1日80回となっている国内線の発着回数が120回に拡大されます。さらに、2030年前後からは1日40回を限度として、国際定期便の運航も可能となる予定です。

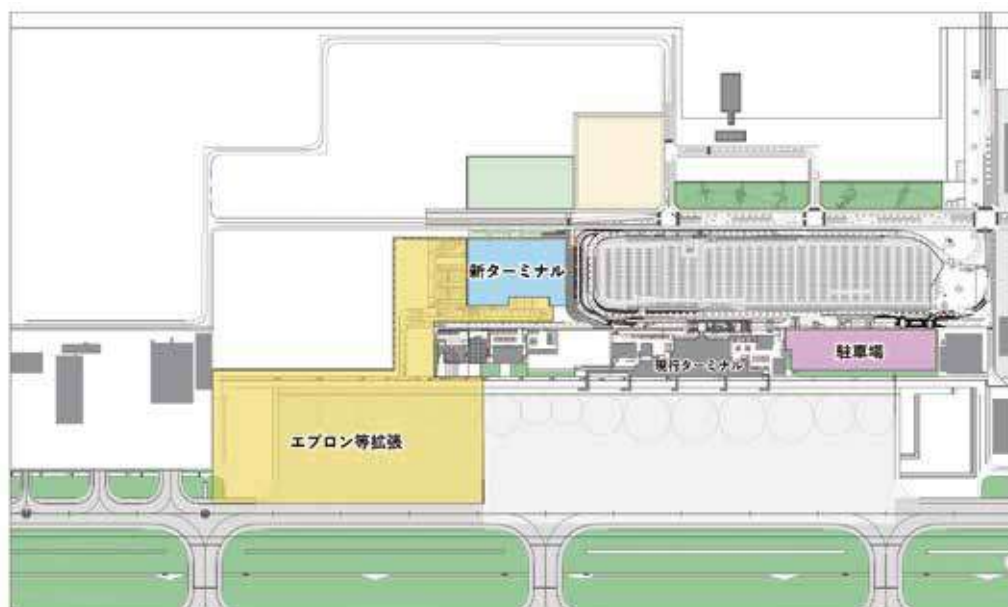
今後、航空需要の拡大に向けた取組みを進め、国内外からより多くの方を受け入れることで、神戸のまちの成長・発展のみならず、関西全体の発展に繋がることが期待されます。



空からみた神戸空港



航空機とターミナル



計画平面図



新ターミナル周辺 イメージ図

## ターミナルの拡張について

新ターミナルは、神戸の空の玄関口にふさわしいターミナルとするため、海・山などの神戸の豊かな自然、みなとまちとして発展してきた歴史、音楽・芸術などの文化と調和した「神戸らしさ」を感じる「海に浮かび、森を感じる」をコンセプトとし、整備を進めています。

ターミナル内部は、主な旅客機能を1階に集約することで、階層移動をなくし、ストレスフリーで快適な旅を演出します。

2階には、海を感じ、山を望む展望デッキを設けます。訪れた方々には、街並みや六甲山のほか、明石海峡大橋などの神戸の景色を楽しんでいただけます。

その他にも、航空機が駐機するための施設であるエプロンの拡張（駐機スポット10→15）や駐車場の拡大などに取り組んでいます。

## 港湾局空港整備課担当者からひと言



新ターミナルの整備においては、限られた施工期間の中で、海上空港ならではの制約条件に配慮しつつ、工程管理や施工方法を工夫し、円滑に工事が進むよう事業者と共に日々奮闘しています。また、関係者の皆さまと協議を重ね、利用者の方の安心感や使いやすさ、快適性を考えながら、ひとつひとつの判断や選択をするよう努めています。これからもいっそう、皆さまに愛着を持ってご利用いただけるよう、神戸らしい環境とおもてなしの心を大切にする、旅客ターミナルの整備を進めます。

港湾局空港整備課 藤本 洋子